

この度は、リジッド ボルトを、お買上げありがとうございました。

- ◆ リジッド ボルトの『作業方法』は、いたって簡単 1時間 以内です。
- ◆ 最後に必ずアライメント Or サイドスリップでトーの調整をして下さい。

- ◆ サブフレーム4本のサブフレーム吊り下げの

純正 ボルトは、すでに センターからズレていますので、

- 1. 最初に、サブフレームボルト4本を全部ゆるめ 20mm程 頭を4本共 出します。

そしてこの時点で、フレームを ゆずってみて下さい。

サブフレーム。 サブと、言いますがフレームです。こんなに簡単に

揺れてては、まずいですね。

- 2. 1本ずつ 入口のバリを リューターで削ります。なんどもボルトを差込みながら、「スポッ」とカラーが入ると完了です。削ったあとは、シャシブラック等で、タッチペンして 錆び止めをします。

- 3. ボルトのタップにはウエットグリス Type コパペースト状のモリブデンや 耐熱コンパウンドを 刷毛で、適度に塗ります。

一定のトルクを

4本のボルトに、均一に掛ける為です。それと、まれに、リジッド ボルトが4本刺さらない車両が、あります。 原因は、ボディ側のメス穴のセンターがなんらかの原因によってセンターからずれて外方向に開いている事があります。

このような、車両には『ボルトタップにはウエットグリス Type コパペースト状』の塗布をする事で、ガジる事なく解決する場合があります。

FD2 タイプR シビックの方で、車両の個体差によって 奥に入って行きにくい（装着しづらい）車両の方は、元々のボルトにコパペーストを塗布し、塗布した元ボルトで、元の奥の位置までコパペーストを浸透させ、元ボルトを外し、作業をスタートしてください。リジッド ボルトにもコパペーストを塗布し、**ロングレンチ**を使い、**手締め**で対角線順序で締め込んでください。

- 4. さてリジッド ボルトのカラーの廻りや、サブフレームの内部の穴のカラーの中には、CR-Cを塗布します。

- 5. 締め付けて行く方法は、あたりまえですが、何回も対角線で、7 Kgから始め小さなトルクから序所に、トルクレンチで増し締めして 3回程度に分けて締めて行きます。締め付けトルクは、最終的には、20 Kg以内のインパクトで、しっかり締めて下さい。

カラーは入るが、ボルトを絞める事が**出来ない車両**が、今迄に1台ありました。仙台ハイランド耐久レース号「赤 / 青 塗装の車両 (HP 参照)」です。1本リジッド ボルトを入れるとあと3本はカラー無しの純正ボルトすら入ら無かったです。リジッド ボルトをしていない時代にサーキットの縁石に乗って走り**過ぎた**のが原因ですね。新車からリジッド ボルトを入れていたらズレようは無かったと思います。

そのような原因は、すでにボディ側が左右に開いていてボルトが、サブフレームの馬鹿アナの両サイドにあたって、ボルトは つっ張り・・・すでにリジッド状態でした。

リジッド ボルトを入れるには 板金業者にて、修正機で、修正する必要がありますね。

- 6. そちらの車両がこのような、場合は、元の 純正ボルトで帰宅して頂き、板金業者にて、修正機で、修正する打ち合せをしてみてください。